

「海外現地実習（１）」（インドネシア）

研修先について



日本の木材輸入やパーム油（植物油脂）輸入とも関係の深いインドネシアの熱帯雨林の破壊の現場を訪れ、森林を守るためには住民への国際的な支援が極めて重要であることを学びます。この代表的な例としてエコツーリズムやアグロフォレストリー、フェアトレードの産業を学生が体験し、住民や国際 NGO 職員ともディスカッションします。また、本学の協定校であるガジャマダ大学にも訪問し、文化交流を試みるとともに、廃棄物・貧困等の対策について近隣を視察します。

研修プログラム概要

行き先	インドネシア・ボゴール
時 期	春季休業期間中
日 数	11 日間
費 用	約 31 万円
滞 在	ホテル、民泊

研修の様子



村のホームステイでは、家の方々は温かく出迎えてくださり、アットホームな雰囲気です。とても居心地が良かったです。



ジャカルタで伝統織物、バティックの染色体験ができます。バティックは世界無形文化遺産にも登録され、インドネシアを訪れる観光客からもお土産として人気です。

スケジュール（例）

DAY1	出発、ジャカルタ着
DAY 2	西ジャワ州マラサリ村に移動
DAY3-6	熱帯林エコツアー 香辛料・果物の収穫・調理体験 エビ養殖池見学 マングローブ林の再生現場見学 など ジャカルタへ移動
DAY7-9	ガジャマダ大学訪問 廃棄物対策の「ゴミ銀行」見学 伝統染物バティック体験 世界文化遺産ボロブドゥール遺跡 など
DAY10	ジャコウネコ・コーヒー工房見学 ジャカルタ空港出発
DAY11	帰国

学生の体験談

ジャングルの中では多くの野生の動植物が生息し、ワウワウテナガザル（絶滅危惧種）の親子の姿を目にすることができました。食用植物や薬草を口にしたり、有毒な木や珍しい花を観察したりした。また、アグロフォレストリー（森の再生と農作物の収穫を両立させる複合経営）の見学では、さまざまな熱帯の果物（ドリアン、マンゴスチン、パパイア等）、さらには日本でもなじみのある香辛料（バニラ、シナモン、コショウ等）の木々を教えていただき、驚きの連続でした。発展途上国での持続的な産業の意義は大きく、生産者も自然環境も大事する取り組みを応援したいです。